

## 5. 千島海溝および日本海溝で発生した各地震の 震度と津波の高さ

震度資料なし

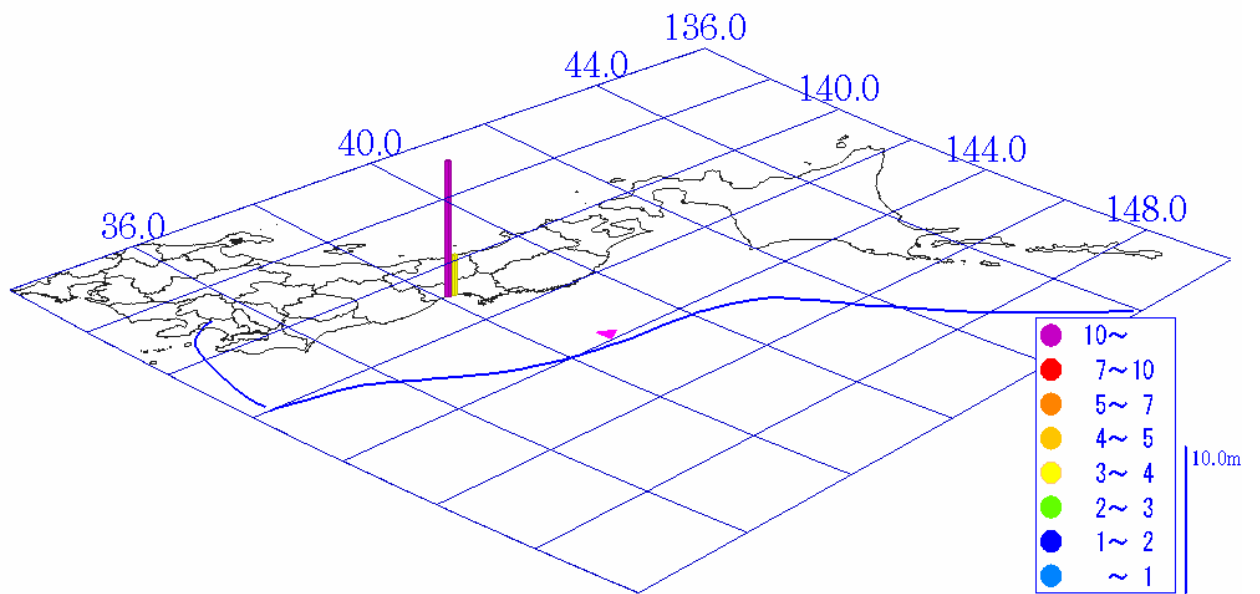


図 5-1 869 年貞観地震 (M8.3) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

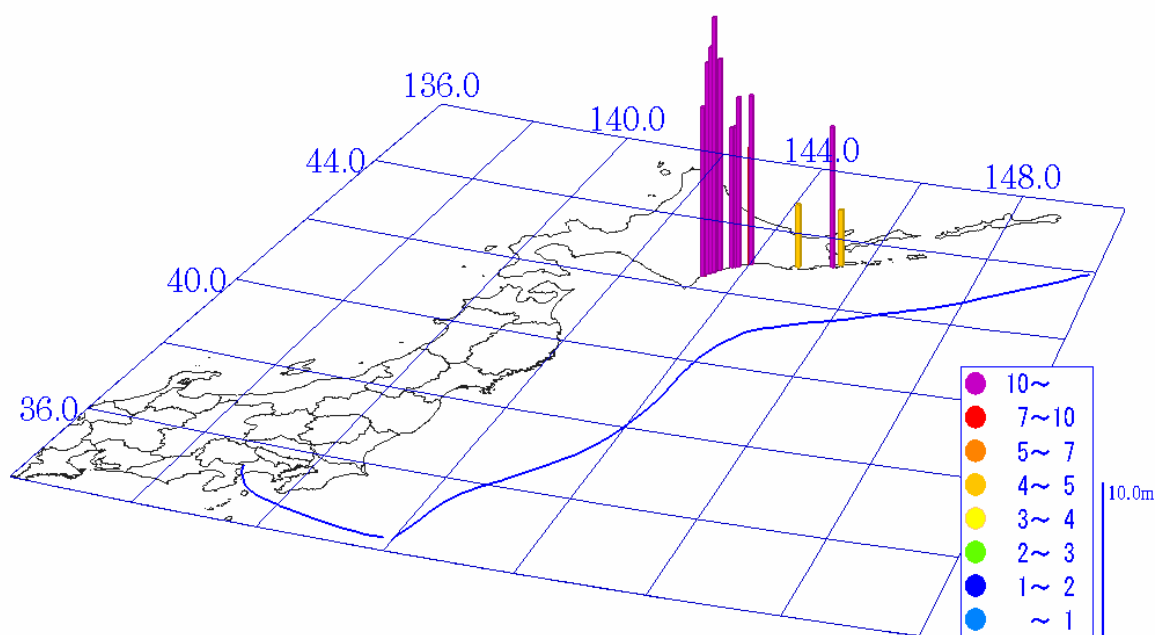
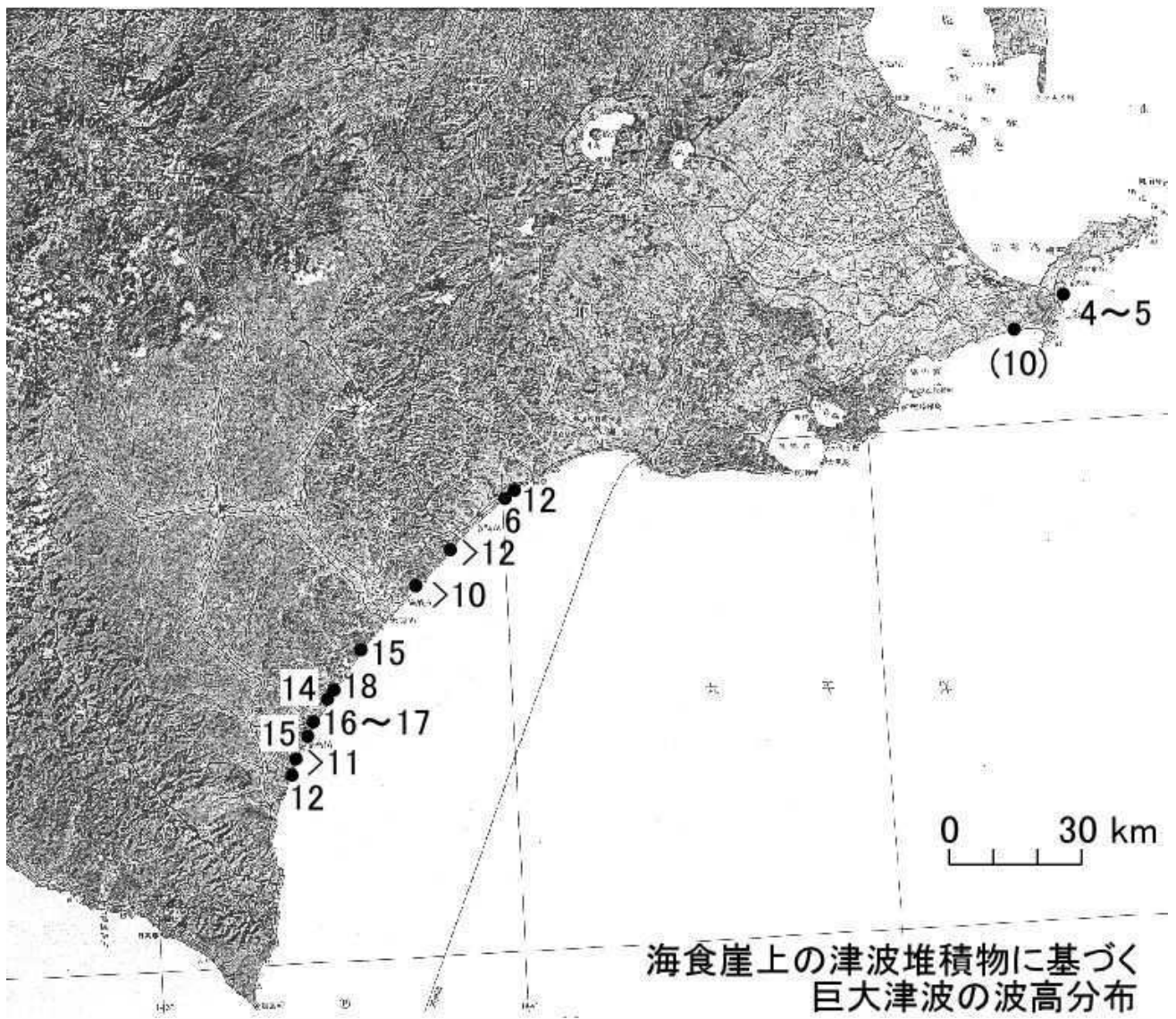


図 5-2-1 500 年間隔地震（約 500 年間隔の津波堆積物に対応する地震）  
による津波の高さ分布

計測地点	推定津波波高(m)	備考
<b>十勝～馬主来沼</b>		
豊似浜	>12	Cv, M+H
小紋別(小紋別川と旭浜間)	>9	Cv, H
旭浜	>11	Cv, H+M (水準点)
旭浜・浜大樹(歴船川河口左岸)	15	Cv, M (水準点)
浜大樹～(当縁川河口)	>12	Cv, M (水準点)
当縁湿原・ホロカヤントー間	16	Cs, M (三角点)
ホロカヤントー・生花苗沼川間	14	Cv, M
生花苗沼川(左岸の海成段丘)	18	Cs, H
湧胴沼(南西部の小谷)	>10	現海岸から2km谷奥, M
湧胴沼・長節湖(中間点付近)	15	Cv, 小谷奥
十勝太・厚内(中間付近の昆布刈石)	>10	C+T, 海岸から370m谷奥の段丘上
厚内南西4km地点	>10	Cv, H
厚内西方2km地点	>7	Cv+T, M
厚内東方3km地点	12	Cv (海食崖から370m内陸), M+H
馬主来沼	10以下(6.5まで確認)	小谷奥, H
<b>根室付近</b>		
別当賀	10	比高1.5mの小海食崖を伴う小谷の奥100m地点, H
長節湖北東1.5km地点	>4	Cv, H

Cv: Cliff height (vertical), Cs: Cliff height (Steep Slope, 30-45°), T: Terrace in the small Valley  
M: 地形図読み取り, H: Hand Leveling

表 5-2-1 500年間隔地震(約500年間隔の津波堆積物に対応する地震)による津波の高さ

震度資料なし

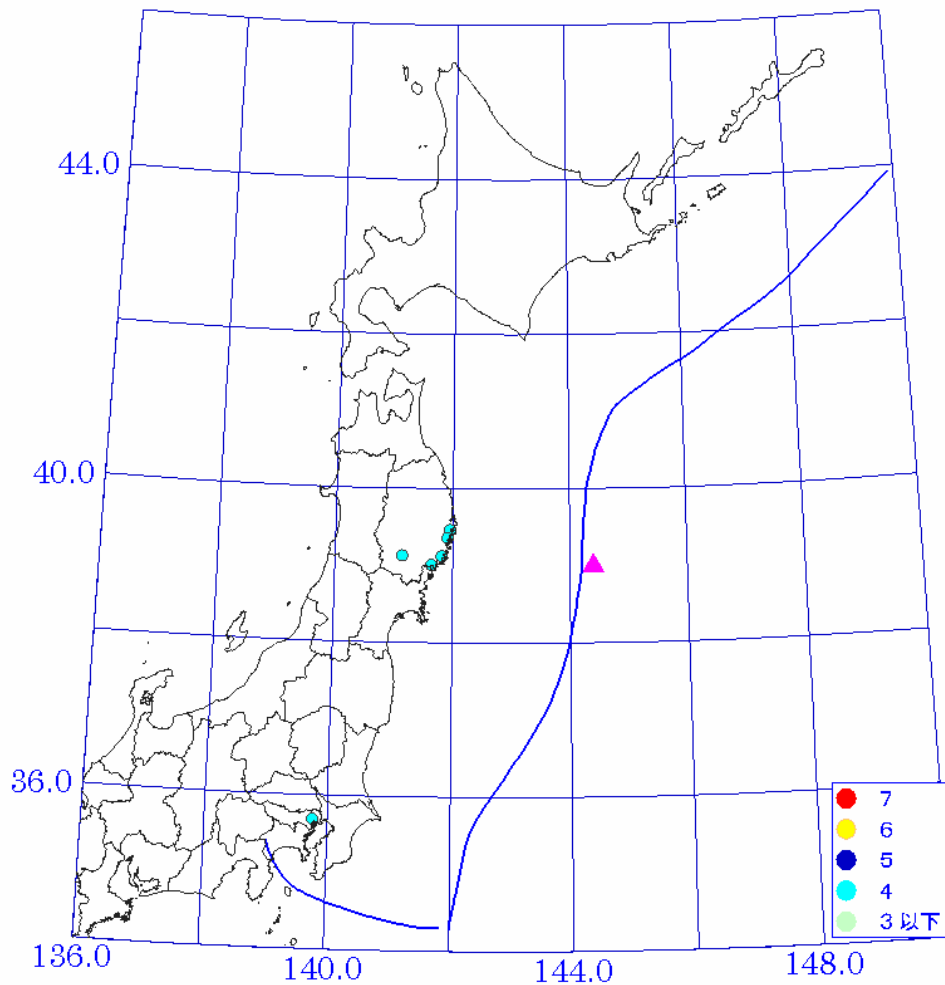


図 5-3-1 1611 年慶長三陸地震 (M8.1) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

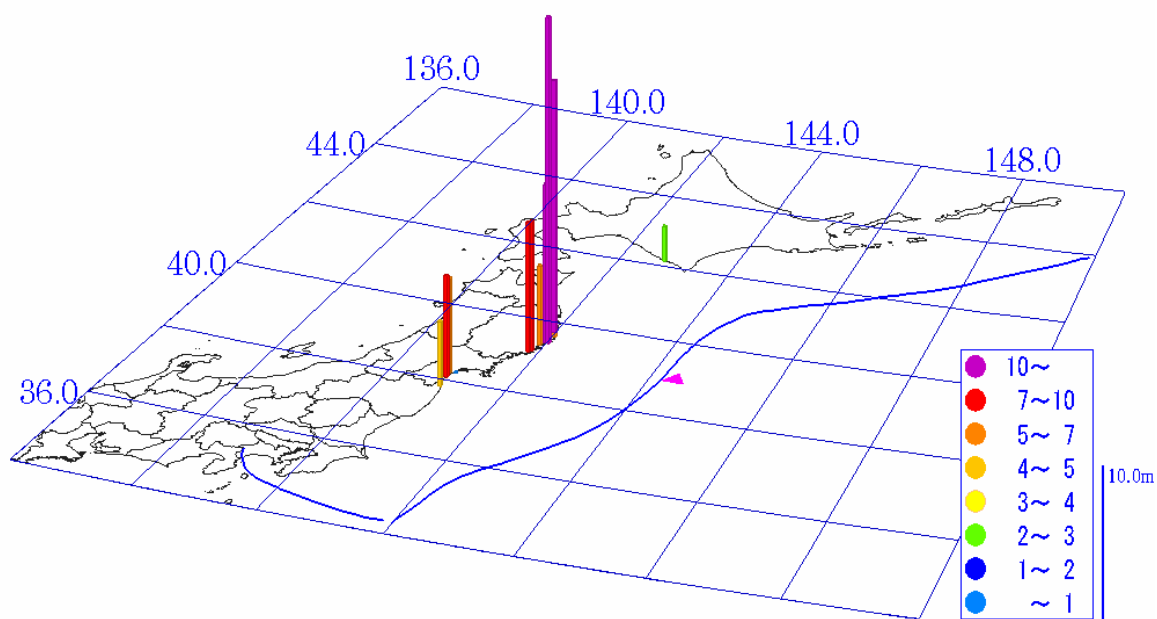


図 5-3-2 1611 年慶長三陸地震 (M8.1) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

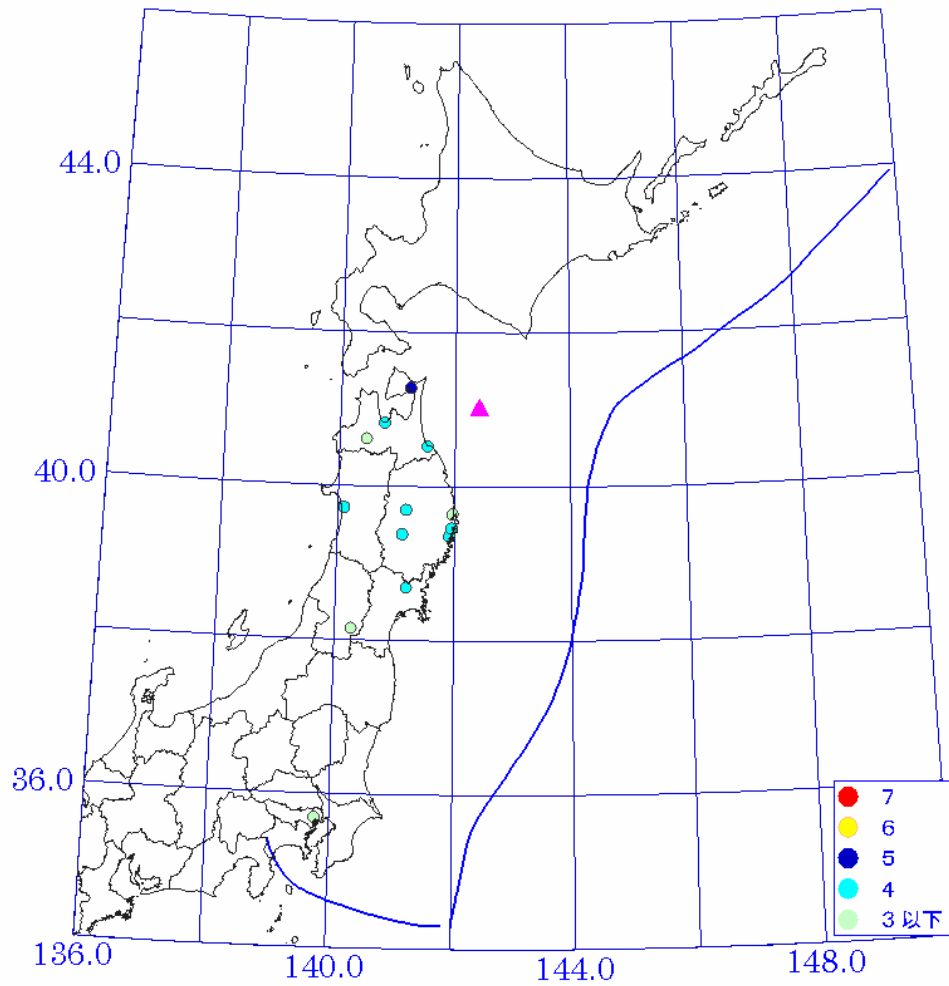


図 5-4-1 1677 年延宝三陸沖地震 (M7.3) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

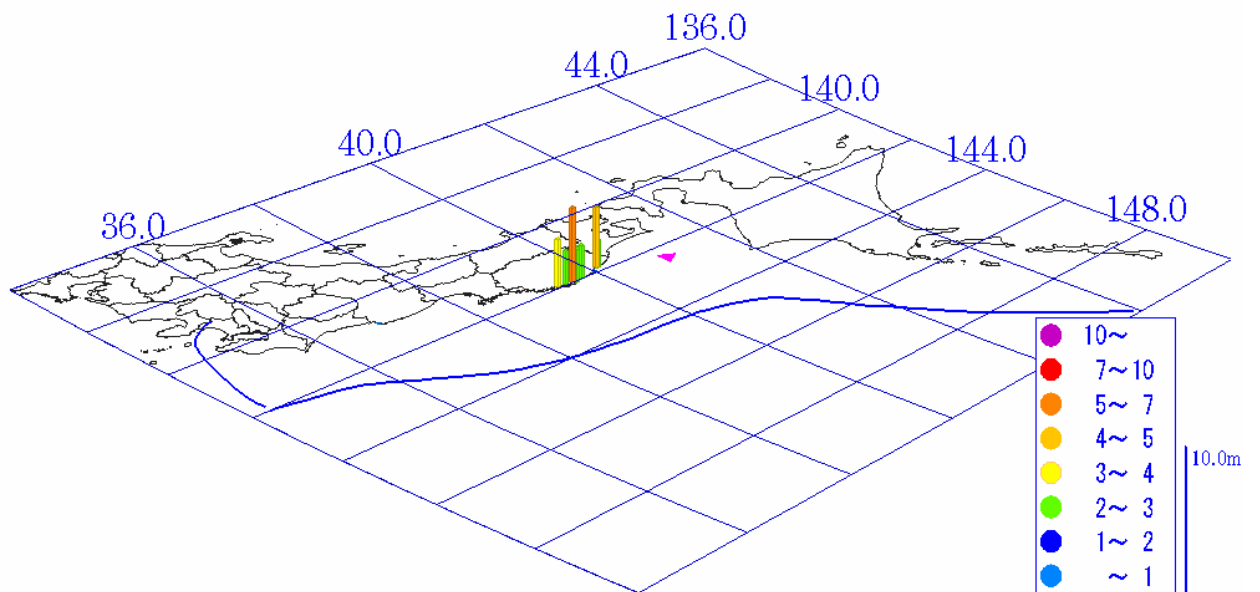


図 5-4-2 1677 年延宝三陸沖地震 (M7.3) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

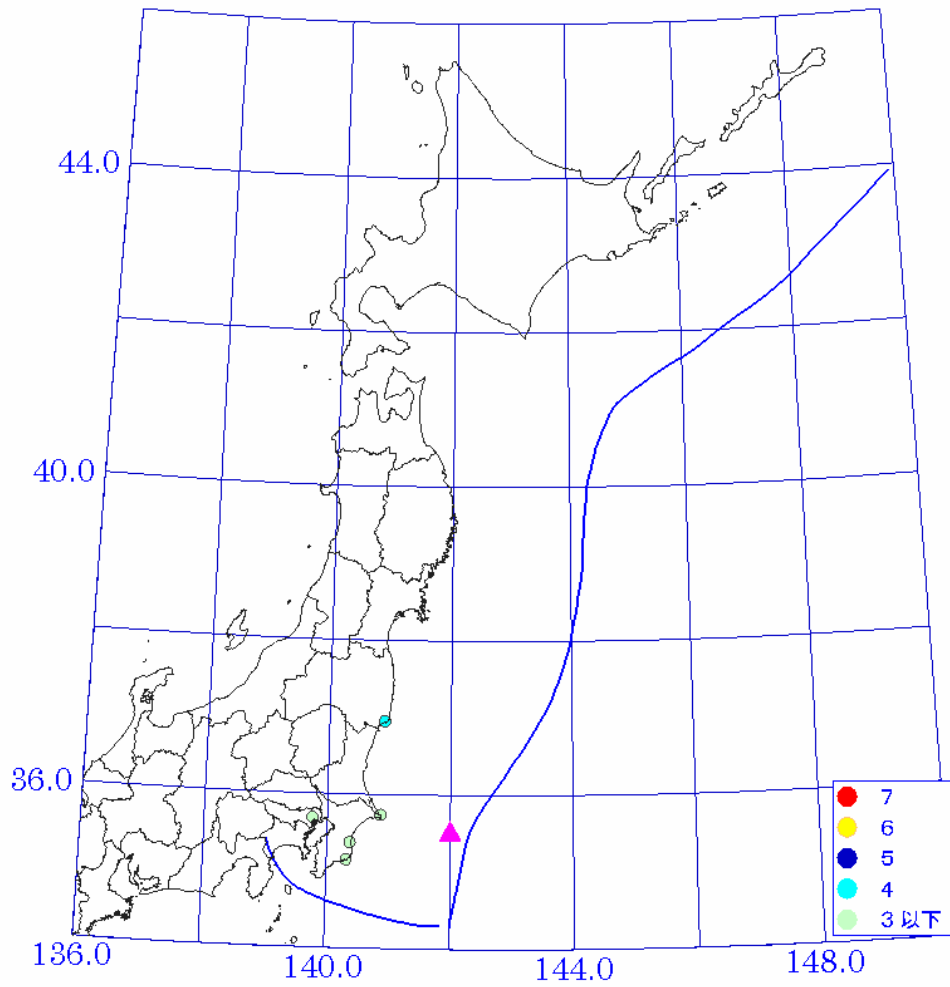


図 5-5-1 1677 年延宝房総沖地震 (M8.0) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

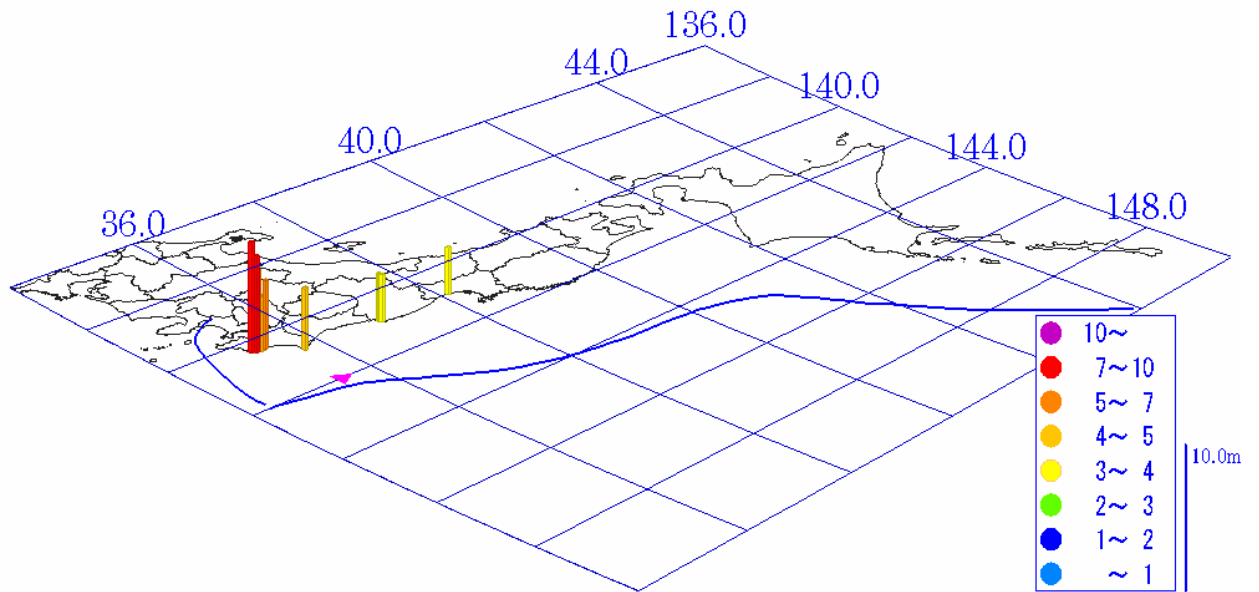


図 5-5-2 1677 年延宝房総沖地震 (M8.0) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

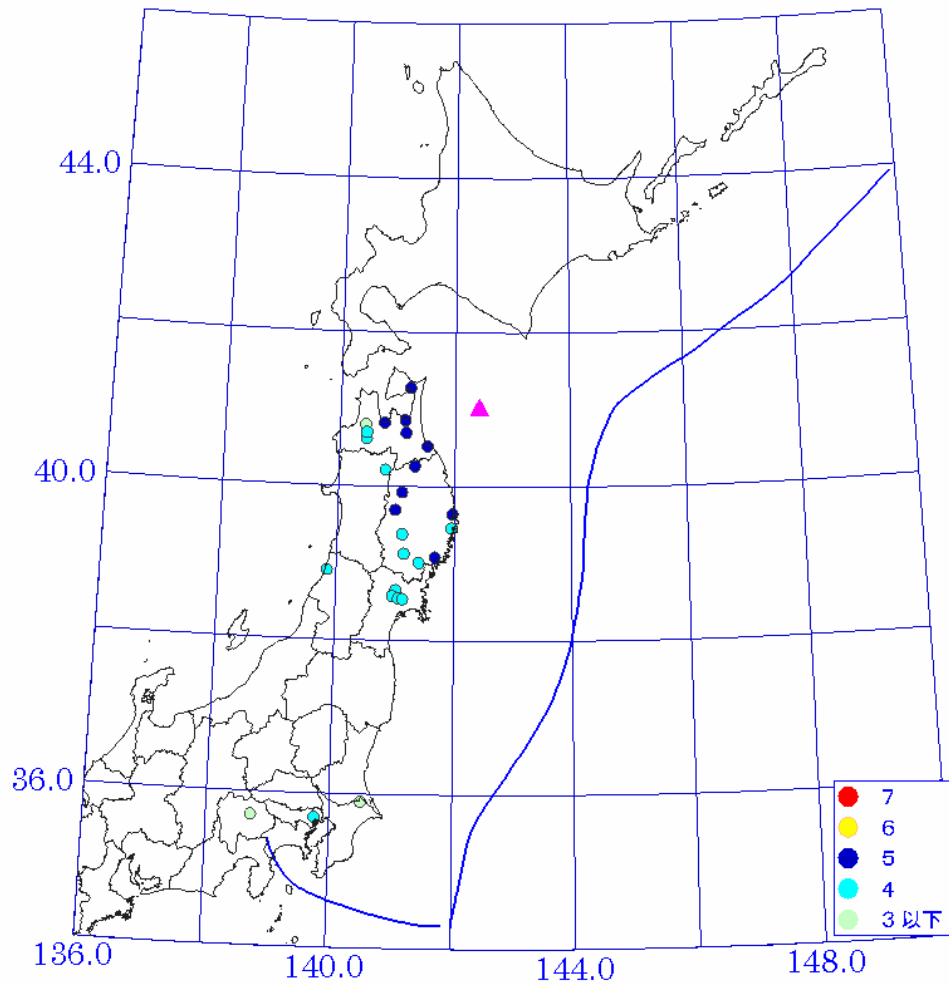


図 5-6-1 1763 年青森県東方沖地震 (M7.4) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

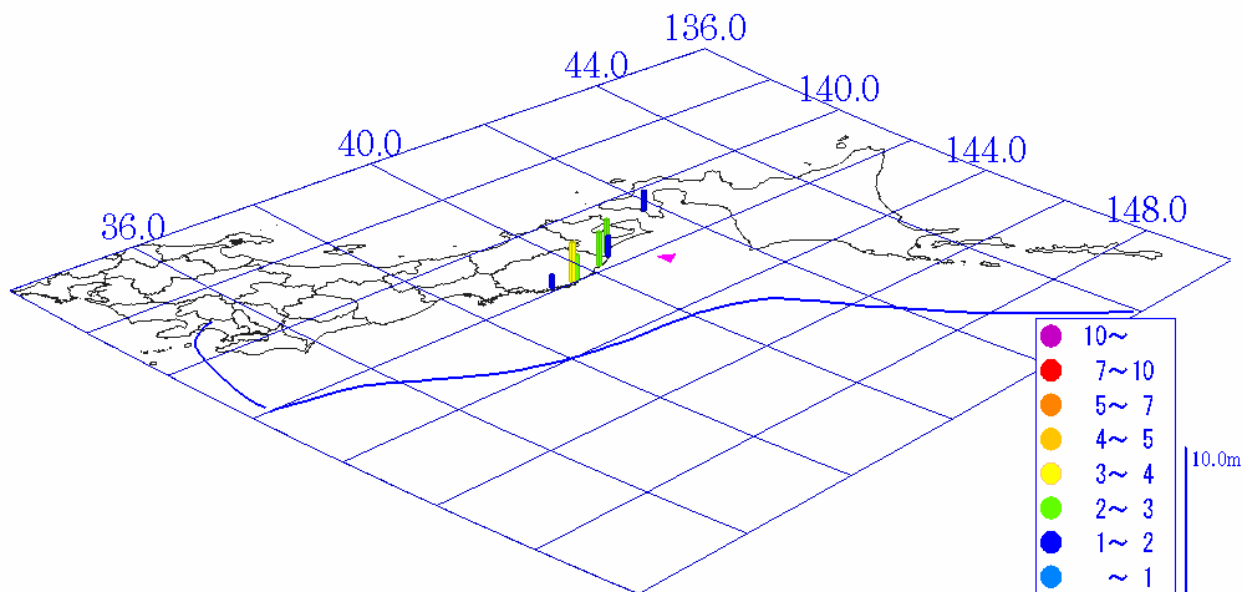


図 5-6-2 1763 年青森県東方沖地震 (M7.4) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。



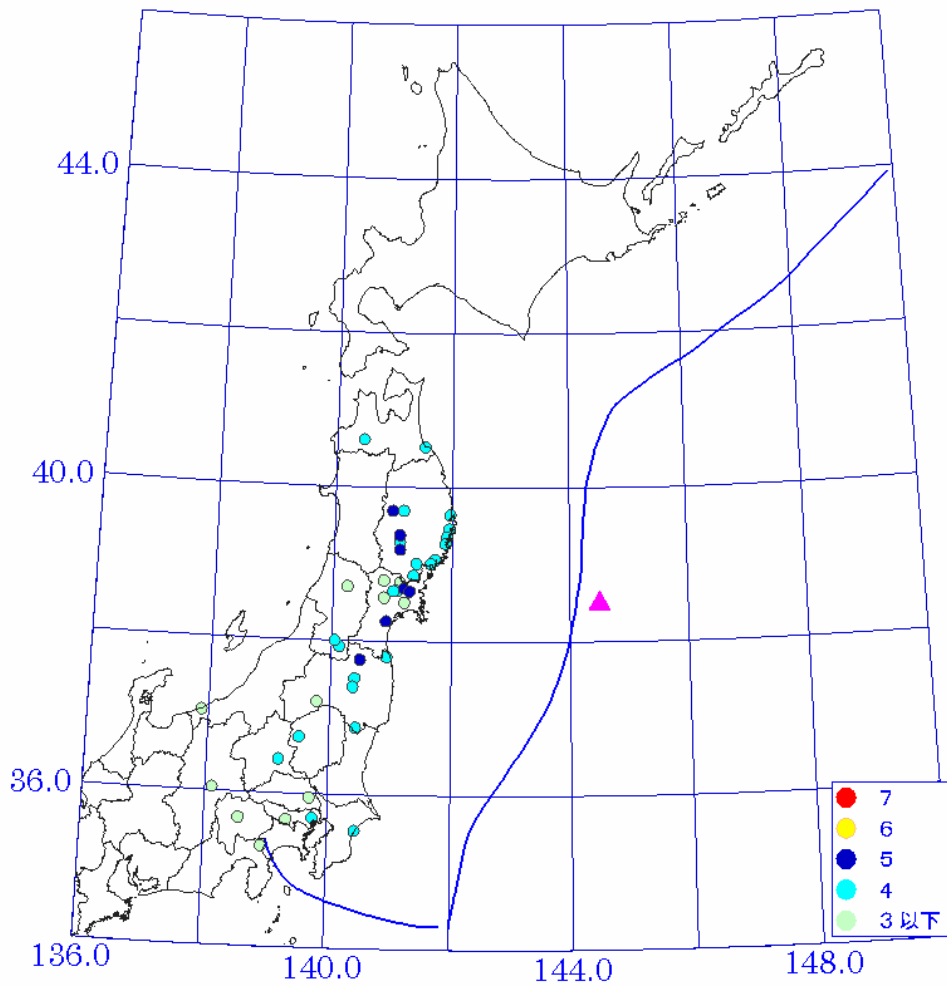


図 5-7-1 1793 年寛政宮城県沖地震 (M8.2) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

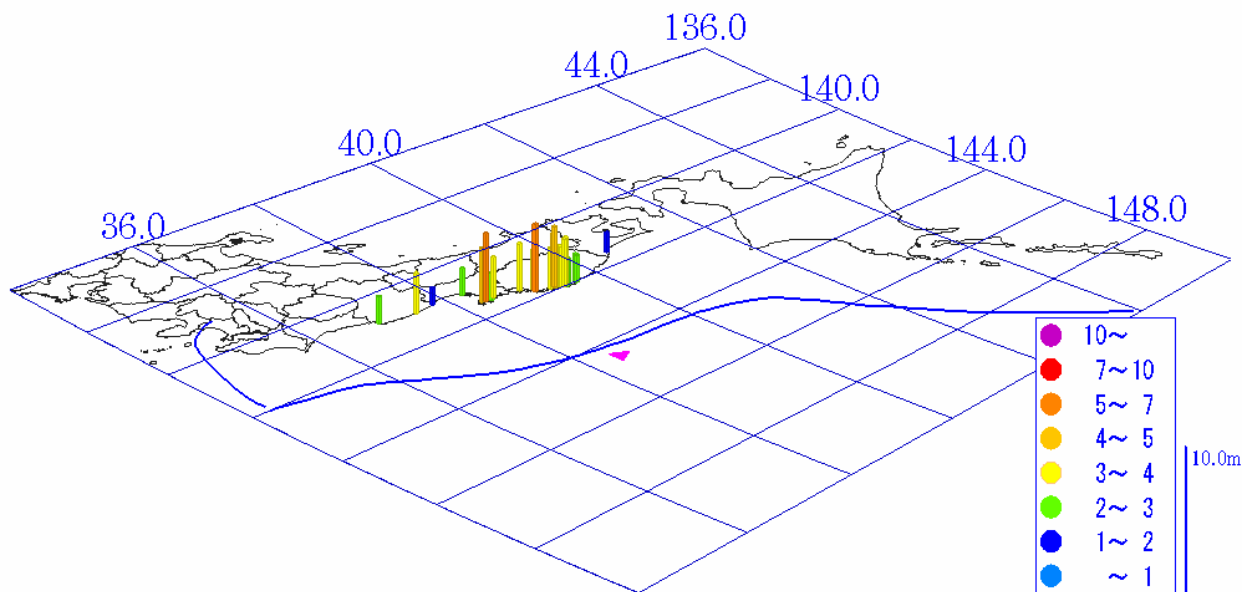


図 5-7-2 1793 年寛政宮城県沖地震 (M8.2) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

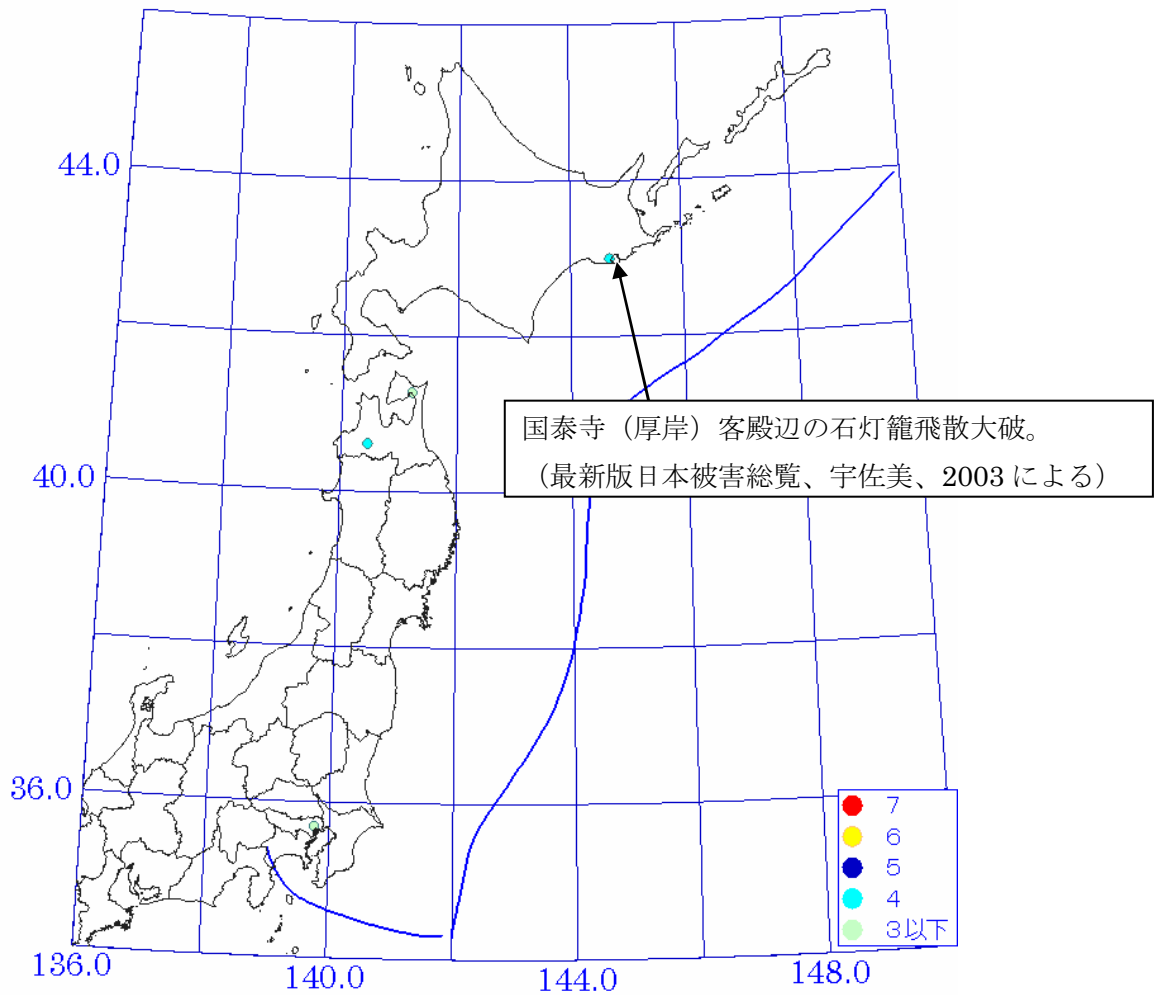


図 5-8-1 1839 年釧路・厚岸の地震 (M7.0) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

津波資料なし

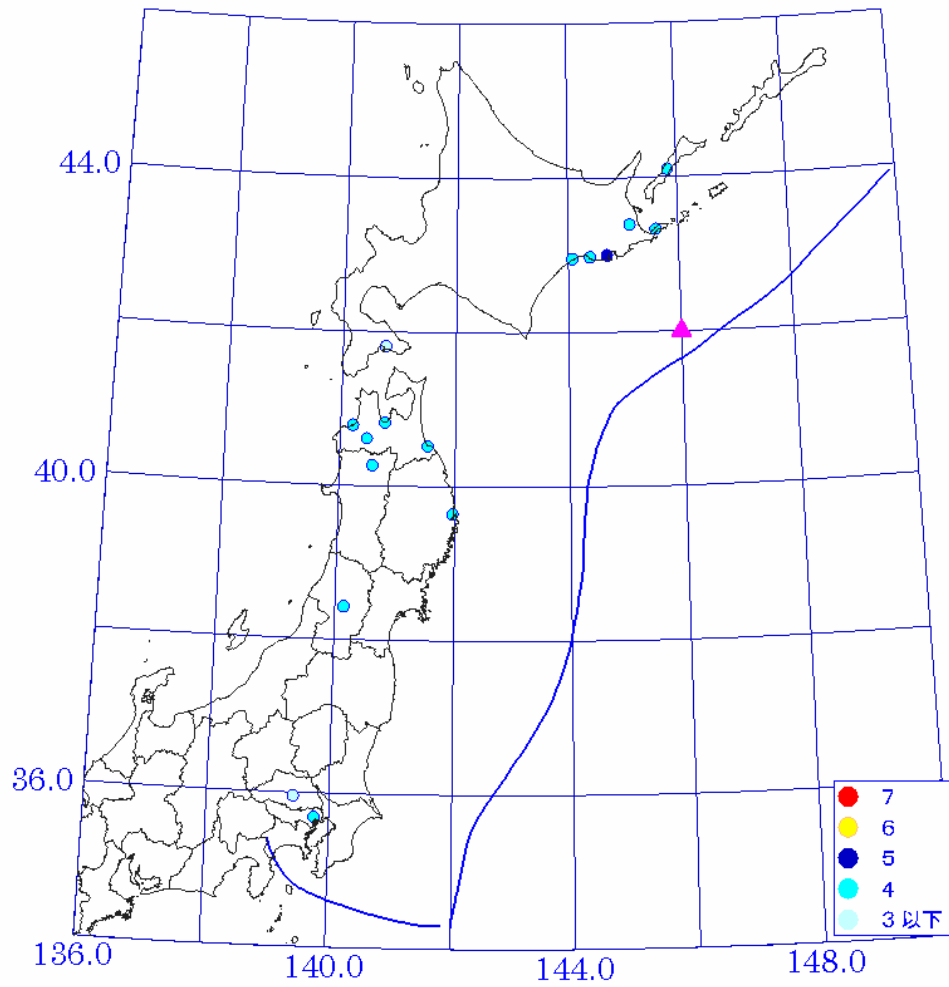


図 5-9-1 1843 年天保地震 (M8.0) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

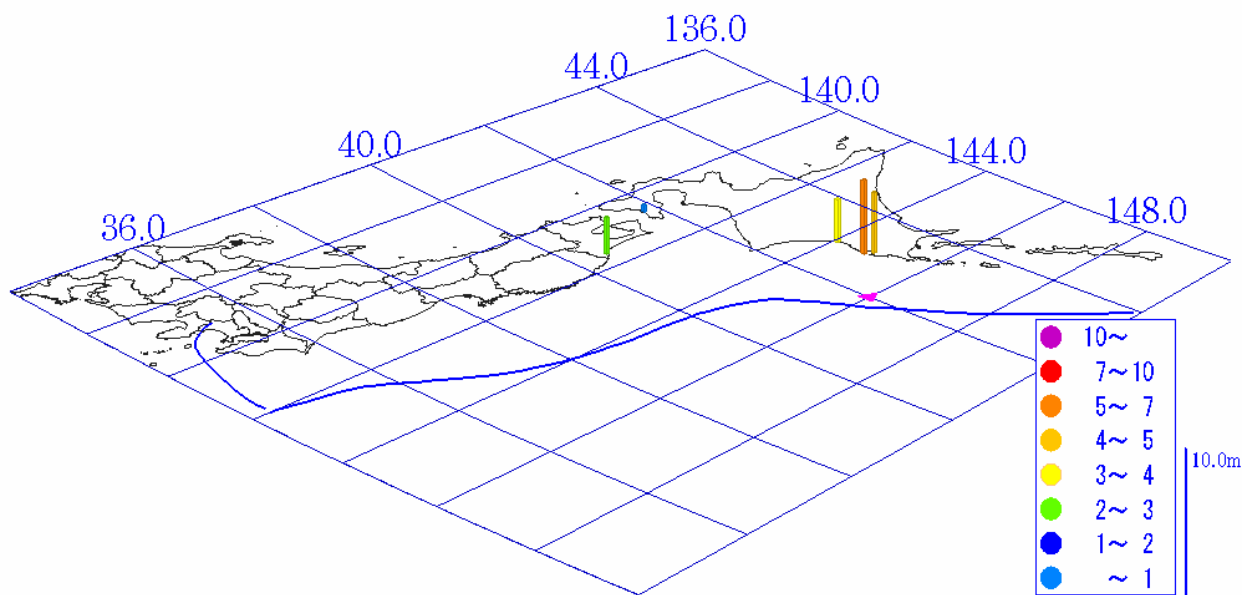


図 5-9-2 1843 年天保地震 (M8.0) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

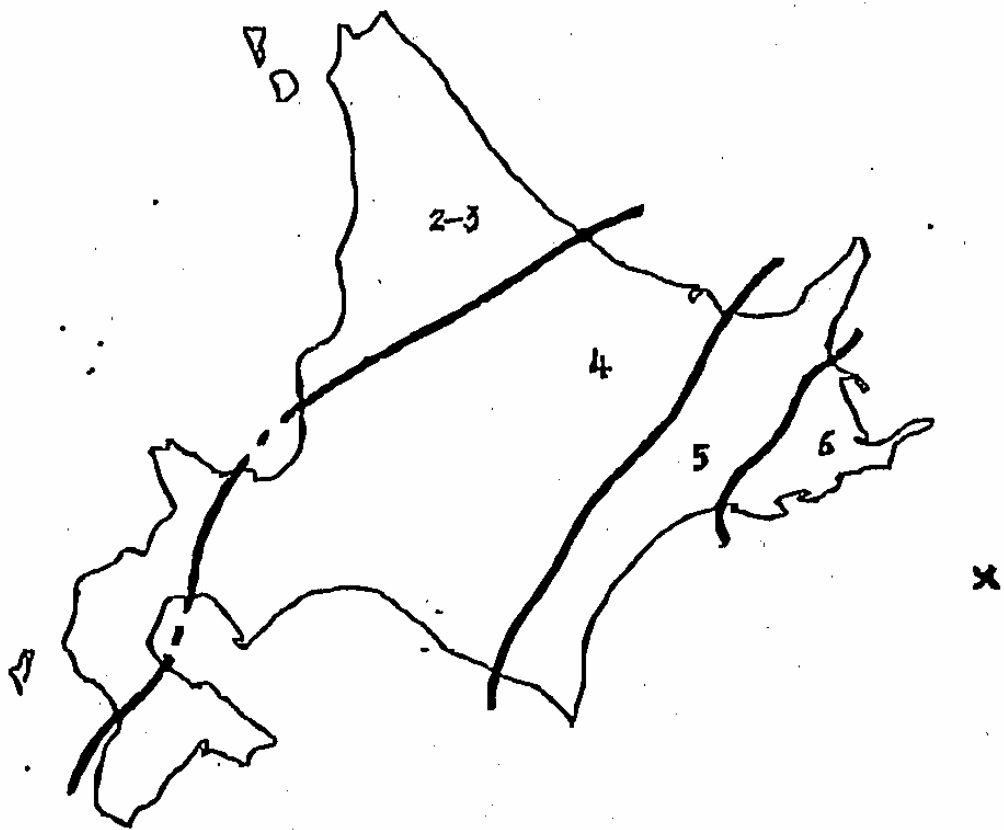


図 5-9-3 1843 年天保地震 (M8.0) による震度分布。  
気象庁技術報告 20 号による。

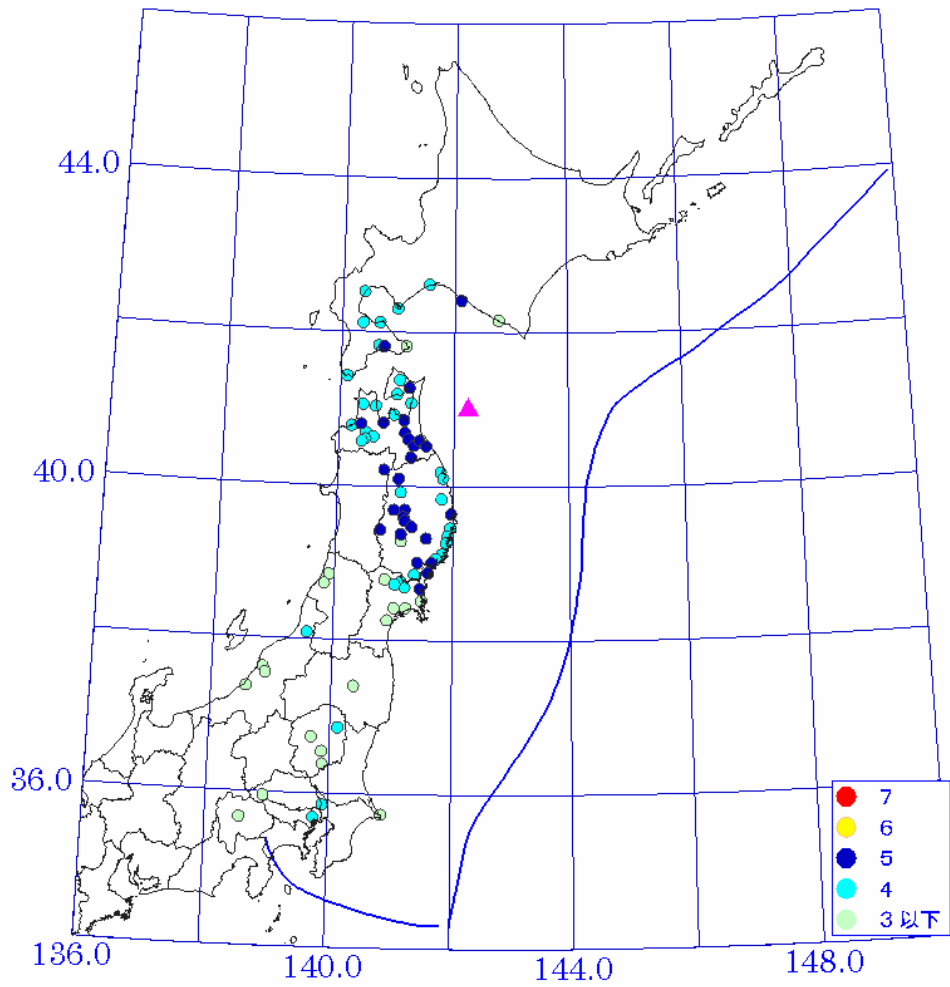


図 5-10-1 1856 年安政三陸沖地震 (M7.5) による震度分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

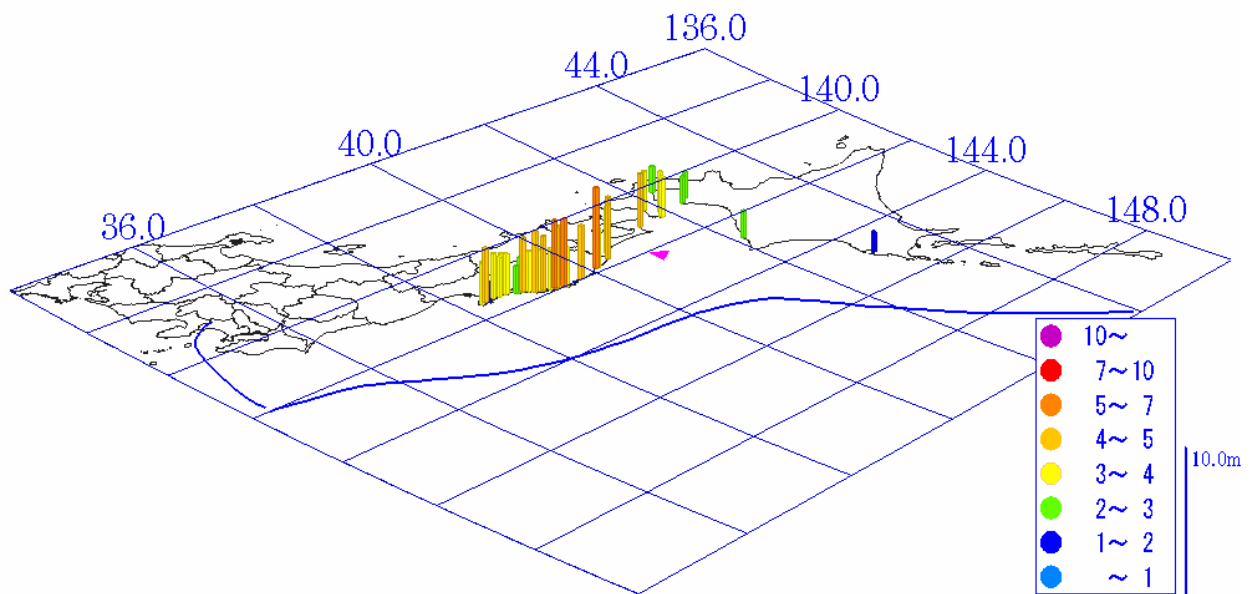


図 5-10-2 1856 年安政三陸沖地震 (M7.5) による津波分布。  
青線は海溝軸、▲は震央の位置。

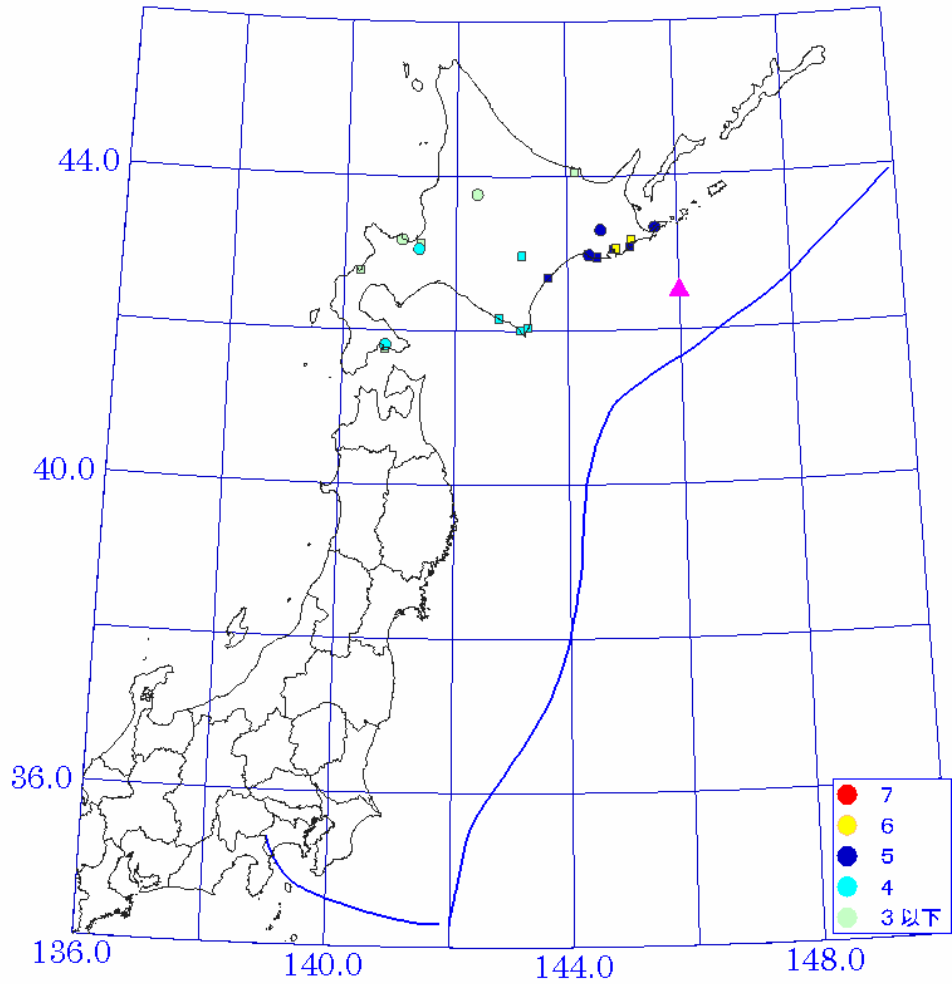


図 5-11-1 1894 年根室沖地震 (M7.9) による震度分布。

○ 印は気象庁震度、

□印は気象庁技術報告、鏡味(2004)による震度。

青線は海溝軸、▲は震央の位置。

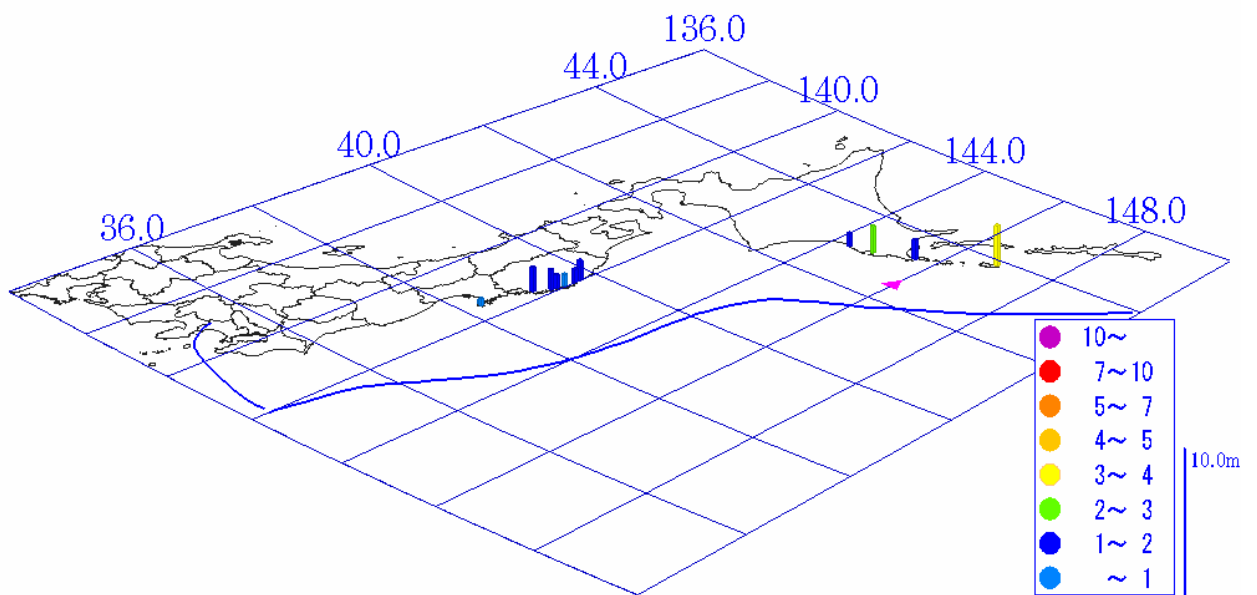


図 5-11-2 1894 年根室沖地震 (M7.9) による津波分布。

青線は海溝軸、▲は震央の位置。

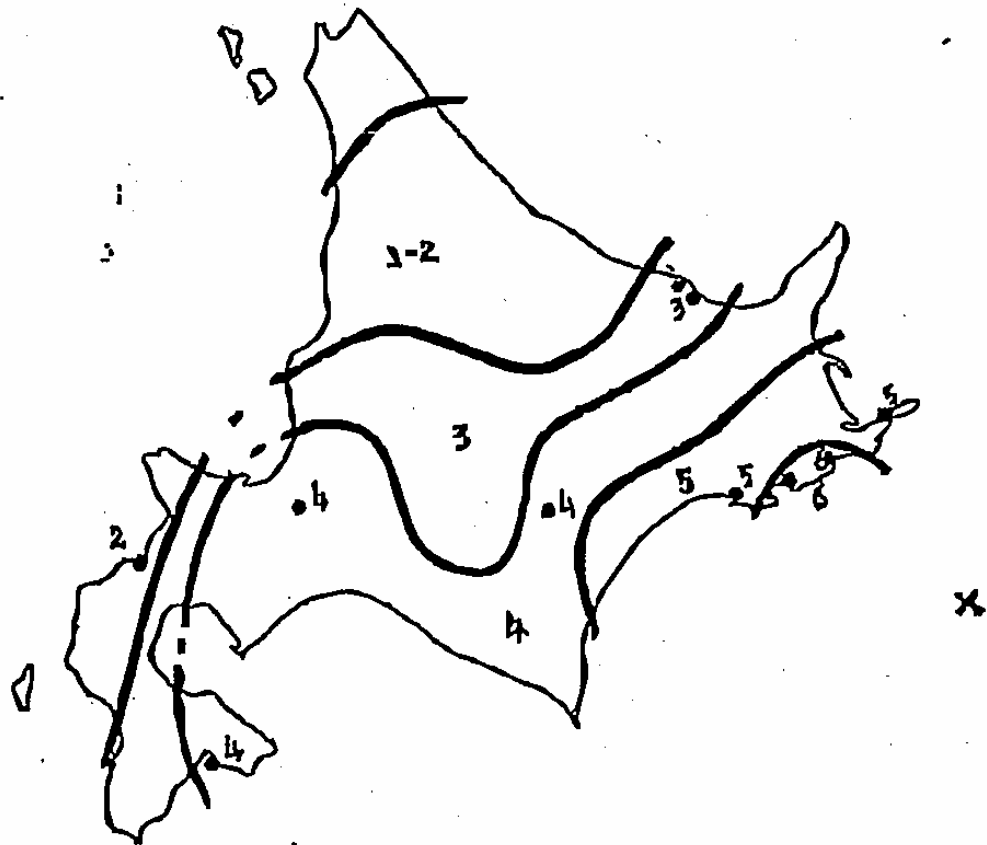


図 5-11-3 1894 年根室沖地震 (M7.9) による震度分布。  
気象庁技術報告 20 号による

表 5-11-1 1894 年根室沖地震(M7.9)による各地の被害と推定震度(鏡味,2004 による)

地名	被害地震総覧(文献7)	震災予防調査会報告			東京朝日新聞(文献5)	河野常吉(文献6)	震度
		道庁(文献2)	大森(文献3)	石井(文献4)			
根室	負傷4 土蔵破損26、 煉瓦造4、建物 39、石蔵1	負傷4 大破70	負傷4 土蔵破損26、 煉瓦造4、建物 39、石蔵1	地盤は良いが 被害大	死者なし 負傷45 煉瓦煙突崩壊	潰家89、死傷48	5強
霧多布	潰1	家屋倉庫倒壊3、道路亀 裂、浸水	家屋倒壊1倉 庫2				5
厚岸	死1傷3 潰11、半17	負傷1 建物全潰11、半潰17	負傷1 建物全潰11、 半潰17	被害：低地で 大、丘上で小	死者なし 潰家25	潰家25	5強
昆布森						男女圧死各1、女負傷2	5
釧路	死1傷2	死者1負傷2 器具転落	圧死1負傷1	被害：丘上で 大、丘下で小	倒家夥し	器物落下、真砂町：地盤 亀裂、建物倒壊、人畜被 害なし、陶器被害	5
大津						負傷12、 全139戸中53戸被害 亀裂、液状化、噴砂	5強
庶野						ルーラン：津波、10間	4
幌泉		鳴動、被害なし				被害なし、	4
札幌						ランプ動揺、戸外飛出し	3
浦河		器物転落					4
函館						強震、戸外飛出し	3

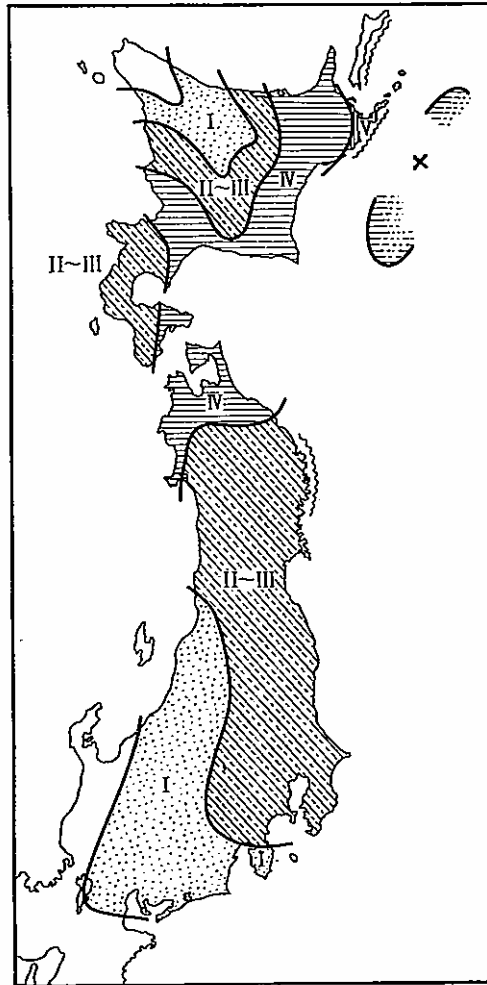


図 307-2 震度分布 [中央気象台, 1897]

図 5-11-4 1894 年根室沖地震 (M7.9) による震度分布。  
宇佐美 (2003) による